

## 「学齡超過生」の教育のあり方を研究する大学院生

九州のある特別支援学校に在任しながら、大学院で学ぶ院生から、初メールが入った。

現任校では、ここ数年、主に重度・重複障害児の指導に携わり、昨年度初めて「学齡超過生」を担当し、学齡超過者の場合には、学齡児と共通する難しさだけでなく、学齡超過者ならではの難しさも痛感していることから、その教育のあり方をテーマに研究に取り組んでいるとか。

メールには、次のように書かれていた（抜粋）。

【 研究を始めるにあたって先行研究論文を探したのですが、残念ながらほとんど見つかりませんでした。

その後も情報収集を進める中で、先生の HP に出会いました。

まさしく私の知りたかった情報満載で、大変感謝しています。

これまで私が感じ、折にふれ考えていることと大きく重なり、胸に響きました。

彼らに対する先生の熱い想いをひしひしと感じました。

もしもできることでしたら、さらに詳しくお話を伺いたいと希望しています。 】

いくつかの県で公式に学齡超過者の義務教育就学が可能（ex. HP「雑学 BN」の福祉・教育・医療関係（V）、2012.08.08.「学齡超過者の義務教育就学が始まって2年目」等：参照）になったのはごく最近だけに、関連情報も先行研究論文もまずないだろうなあ～。

それだけに、この時期にこうしたテーマで研究に取り組み修士論文に纏めてくれるとは、有り難い限り！

手持ちの情報等を提供したい旨と、「修論が仕上がったらコピーをいただきたい」と、厚かましくお願いの返信した。

情報を求めてインターネット上をサーフィンしていて、当 HP「雑学」やバックナンバーである HP「雑学 BN」の記事にヒットして、存じあげない方から初メールをいただくは、過去に何人かいた（ex. HP「雑学 BN」の随想等関係（IV）、2006.02.04.「『めっちゃいい。』とは、簡潔な表現で『めっちゃいい！』」：参照）。

厚かましい HP 発信が、こうした方々の目に留まることもあることを知ると、あれこれ発信し続けていることの大事さをつくづく感じる。

また、HP「雑学 BN」は、私自身の書類ファイルや書棚代わりを兼ねている。

過去に、「レポート作成の参考になっている」と言う学生たちもいたし、こうして研究の文献としても次世代の後輩たちに役立つことも知ると、HP「雑学 BN」を開設していて本当に良かったと、つくづく思う。